



No.30 (通No.109) 2022年11月7日

てつがく なかにわ

LEE'S レター 哲樂の中庭 2022年立冬

仕事をこえて、さまざまに考えをめぐらせ、それをまた仕事にいかすアプローチ

日本が守(も)っているワケ

「音声」も3年目

2020年コロナ禍、一斉にひろがったオンライン会議で画面よりも「音声」に目覚め、同年4月末から『ひと言ひとり言』を始めて、今は『essais〈話す〉』。朝一番10分前後即興で話してwebにup、今ではすっかり朝のルーティン。

8月からはほんの思いつきで『老子 道德経』も詠んでいます。ちょっとしたきっかけで、2018年に2冊、学術的なものと、少しかみ砕いたものを買ってあったのです。

ほぼ手つかずの2冊、最初に学術的な方を詠んで、もう一方を詠む。解釈なんてとてもできません、ただ感じるだけ。今は未だ、朝の〈一服〉、清涼剤です。

11月末にかけての催し

身近なところでの3つをご紹介、お時間が許せばぜひどうぞ。

「ホスピタルアート in ギャラリー」(～11/13) <https://www.hitoiro.com/hospital-art-in-gallery/>

「スタートアップ プロ講師」(11/12) https://creo-osaka.or.jp/archives/event_east/720

「女性チャレンジ 応援拠点ゼミ」(11/26) <https://www.shisetsu-osaka.jp/shisetsu-no/koza/detail.html?kozaid=50972>



LEE'S (リーズ)

〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-1

堺筋高橋ビル5F Tel. 06-7164-0937

大阪NPOセンターRS B507

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi



秋はイベントの多い季節、いろいろとお知らせが届き、まわりにも案内して、タイミングが合えば出かけます。

9月は映画をみました。『ちょっと変わった有料老人ホーム ひろんた村母屋』。30数年前に「自給自足生活」をきめて、知恵とワザをつみかさねた歌野一家の、2018年に開所した老人ホームのドキュメンタリーです。

たぶん「知る人ぞ知る」方でしょう、あらためて、“こういう人がいるから、まだ世の中守ってる…”と感じました。

日本は社会の上下、左右のところで、個人単位あるいは小さな集団で〈世のため人のため〉に動く人が多い。事務所を開いてまもない1996年秋に仕事であった大企業の部長が何げなく言った、「やっぱり、真剣で、頑張ってる人を応援したいやんか」。以来、何度“こういう人がいるんだ…”と感心、感服してきたことか。

下欄で話題にしている「中井久夫」の著述に先日見つけた一文。

「日本の政治家には魅力がない。ではなぜ日本が近代化に生きのびられたのか。日本では有名な人はいたことがない。無名人が偉いのだ。目立たないところで、勤勉と工夫で日本を支えている」。

映画がおわり、会場に顔をだしていた監督に感想・感動を伝えました。仕事で10数年前に出会い、その後も交流の続く映像作家、「こういう人がいることを伝える、それがわたしの仕事だと思ってるの」と言葉が返ってきました。私はというと、そういう人をアシストすることが大事な仕事の一つ。

ところで歌野家は、長年の自給自足生活の知恵とワザを今の社会、次代につなぐため、『ひろんた式 自給学校』を始めているそうです。

<https://www.hironta.com/jikyuu/>

| 見聞感考 | 超人の親しむ「筆写」と「暗唱」

天才、鬼才、超人、奇人、はたまた変人。非凡な才をそなえた人がどの時代にも現れますが、8月8日に88才でこの世を去った「中井久夫」は現代の超人の一人だったろうと思います。

日経の計報には「総合失調症研究の第一人者で、阪神大震災など災害被災者の心のケアにも先駆的に取り組んだ精神科医で神戸大学名誉教授(略)人間同察に基づく随筆や、ギリシャ文学の翻訳でも知られた」とあります。

初めて「中井久夫」を知ったのは20年ほど前で、大学の先生をしていただき知人の勧めでくれた『治療文化論』でした。それからずいぶん経ち新聞広告でみた『私の日本語鑑記』が2冊目。これは、まったく「日本語鑑記」ではおさまらない、多岐にわたる内容。どの専門職の人でも読んで為に

なる本だと感嘆しました。読んでみると、自分が賢くなった気分になるから不思議です。

計報に接して何か「人間同察に基づく随筆」を読んでみよう思い立ちました。選んだのは『中井久夫集3 1987-1991 世界における索引と徴候』。解説者が「超人」と表現していましたが、この一冊を読んで、本当にそうだと実感。現代の私たちに多くの示唆を与えてくれる一冊だと思います。

ところで目を引いたのが、「筆写」と「暗唱」。高校時代はリルケとヴァレリーの原書を図書館で借りて詩を筆写して持ち歩き、そして、たぶん晩年まで、「私はしばしば好みの文章の暗唱を好む」。

今では地味な行為に感じる筆写。そして何かしら大らかなイメージの暗唱。超人がそれらに親しんだ姿を想像すると、なんとも親近感が湧きます。